

3年生最後の挑戦

広島市立広島工業高等学校3年（広島県）

松丸 来暉

私は、高等学校入学時から所属していたバレーボール部引退後、以前から興味を持っていた茶道部に入部しました。これまでに体験したことのない茶道の世界に、ワクワクする気持ちと、少しの緊張を抱いていました。いざ入部し、実際に体験してみると茶道の楽しさや奥深さに、週2回のお稽古がとても楽しく、待ち遠しい時間になってきました。

きっかけは、茶道部部長を務める友人の活動を手伝ったことからでした。何度か続けるうち、「引退後、茶道部に入部してみない」と誘いを受けました。中学・高校とスポーツを続けていた私が、高校生活最後の年である3年生になり、初めて体験する文化的な「茶道」を理解し、お作法等覚えられるのか、ためらう気持ちもある一方、悔いのないよう新しいことに挑戦してみたい思いも強く、顧問の先生に相談すると「新しいことを始めよう、学ぼうとする気持ちが何よりも大切です。一緒に楽しみながらお稽古しましょう」と歓迎されました。

初めてのお稽古でお茶を点てた時は、作法も手順も全く分からず、何度も手が止まり焦ってしまいました。一通りの動きを終え自分で点てたお茶を口にした時、何とも言えない達成感に溢れました。緊張もほどけ、穏やかな気持ちに浸っているとある事に気づきました。後輩の姿です。帛紗さばきや所作等、その様子は思っていた以上に上手で、驚きました。私もお稽古を続けていくとあのように上達できるのか、と戸惑いました。長年スポーツをしていたので体力、持久力には自信がありますが、細やかな所作はこれまでにない体験だったからです。そこで気持ちを切り替えました。

「始めた以上は最後まで貫き通すこと」。これは、スポーツを通し学んだ私のモットーです。限られたこの1年間、たとえ時間がかかっても、お稽古には必ず出席し、一つ一つ確実に覚え、絶対に素晴らしいお点前ができるようになってみせる！と決意しました。

入部して2か月が過ぎた頃、先生から8月6日茶道裏千家淡交会による広島平和祈念茶会のお手伝いに声をかけていただきました。私の住む広島では78年前、原爆が投下された8月6日は過去の過ちを繰り返さない決意と平和を願う特別な日です。近年、新型コロナウイルス感染症の影響もあり茶道の活動は制限され、4年ぶりの開催とのことでした。そのような貴重な体験をさせていただけることに気持ちが高まりました。本格的なお茶席に参加することが初めてだったからです。

開催当日、平和公園では日本、世界各地の多くの人が慰霊碑に平和への祈りを捧げていました。いつもと違う風景に緊張し、会場に向かうと淡交会青年部の方々は着物で準備に臨まれていました。凜とした姿に私も気持ちが引き締まり、自然に背筋が伸びました。照りつける暑さの中、青年部の方のお点前をされる姿にその場の空気が一瞬にして静かに変わるようでした。一連の動き、流れるような振る舞いがとても美しく、額から吹き出す汗を拭うのも忘れるくらい見入ってしまいました。お点前が終わった後は、思わずため息が出るほどの衝撃でした。こ

れが長年お稽古を重ねてこられた成果なのだと深い感銘を受けました。私達も参列された方々がほっと安らげるよう心を込めてお運びを務めさせていただきました。皆さん笑顔でお帰りになり、とても嬉しかったです。

「茶道」との出会いは多くの新しい世界を開いてくれました。茶道を通じ、新しいことに挑戦する楽しさと驚き、相手を思いやる心を学びました。次なる目標は、青年部の方のように人の気持ちを動かせるようなお点前ができるようになることです。そして憧れを現実に行えるよう「最後まで貫く」精神で、お稽古に励んでいきたいと思えます。